

令和3年度

# ほがらか家族

明るい家庭づくり作文集

(瀬戸内市優秀賞受賞作品)



セットちゃん

瀬戸内市教育委員会

岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会

## はじめに

公益社団法人岡山県青少年育成県民会議及び、岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会では、家庭の役割、家族のあり方など、「明るい家庭づくり」をテーマとした作文を募集しており、家庭教育等の重要性について意識の向上に努めております。

今年度も、新型コロナウイルスの影響等で生活様式が大きく変わり、子どもたちも自宅で過ごす時間が増えました。一緒に過ごす時間が多い今だからこそ、平素の家族のあり方を見つめ直すことができ、普段言葉にできない家族への感謝の気持ちが込められた力作が揃いました。

応募作品も、860点と増え、その中から瀬戸内市の優秀賞14点、優良賞24点及び佳作71点を選定しました。

この文集「ほがらか家族」は、瀬戸内市の優秀賞作品を掲載したものです。この文集が、家庭の教育力の向上の一助となり、青少年の健全育成につながることを、心から願っております。

令和4年2月

瀬戸内市教育委員会 教育長 東南 信行  
岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会 会長 神坂 俊規

### 瀬戸内市優秀賞一覧

#### 〔小学生の部〕

題 名	所 属	氏 名
ぼくのいとこ	邑久小学校 1年	平川 隆 翔
わたしのじいじ	今城小学校 2年	高橋 ひより
百合子さん、ありがとう	邑久小学校 3年	森上 直 美
十才のたん生日	牛窓東小学校 4年	山根 翔 智
ハンモック	行幸小学校 5年	野田 篤 史
父の背中	今城小学校 6年	瀬 濱 将 悟

#### 〔中学生の部〕

妹が生まれてから	長船中学校 1年	酒井 佑 月
家族と過ごすお盆	邑久中学校 2年	神谷 凧 穂
僕のおばあちゃん	長船中学校 3年	安達 光 希

#### 〔保護者の部〕

長女の成長	国府小学校	赤木 貴 博
お仕事体験	行幸小学校	後藤 佐由里
自然と触れ合える暮らし	行幸小学校	池田 吉 子
我が家のお味噌汁	行幸小学校	山下 梨 奈
コロナ差別を学んで	行幸小学校	中川 愛

## 小学生の部



ぼくのいとこ

邑久小学校 1年 平川 隆翔

ぼくのいとこは、なつきというげんきなおとこのこです。

ぼくとおなじ十一月うまれのゼロさいです。ぼくは、ひとりっこのので、なつきくんがうまれたときは、すごうれしかったです。

ちかくにすんでいるので、よくあいにいきます。いえについて、ぼくが、「なっちゃんきたよ。」

というと、ぼくのかおをみて、いつもよろこんでわらってくれます。なので、なっちゃんのがだいすきです。

あうまえまでないいても、ぼくにあうとさっきまでないいたのがうそのように、ぴたっとなきやみわらってくれます。

いちばんすきなあそびは、ぼうるあそびです。すこしまえまでは、はいはいができなかったのので、ぼうるをじぶんではとりにいくことができなかったけど、いまではじょうずにはいはいができるようになったので、ぼくがぼうるをころがすと、はいはいでぼうるをとりにいってぼくになげられます。

なっちゃんは、ぼうるあそびがすきで、ぜんぜんやめてくれないけど、おかあさんたちに「りゅうくとあそぶのすきじゃな。めんどろみてくれてたすかるわ。ありがとう。」といわれると、とてもうれしいし、おにいちゃんになったきぶんになります。

まだ、おしゃべりはできないけど、あそんでいると、「あ、あー、うーう。」

と、こえをだします。おしゃべりしているので、たのしいよといってくれているみたいでうれしいです。

それと、ぼくがちいさいときにきていたふくをよくきてくれているので、ほんとうのおとうとみたいです。

また、はいはいだけであるけないけど、なっちゃんがあるけるようになったら、いっしょにさんぽをしたり、こうえんにいったりたくさんやりたいことがあります。いまから、あるけるようになるのがまちどおしいです。



わたしのじいじ

今城小学校 2年 高橋 ひより

「じいじって、かみさまみたいよな。」

と、おかあさんは言いました。わたしも、じいじのことをかみさまみたいにすごい人だなとずっと思っていました。

おうちのうら口のやねが風ではずれてしまった日も、すぐに来てなおしてくれました。タオルの

たなも、ペットゲートも、わたしが一さいのときからあそんでいるおまごとキッチンもじいじがつくってくれたものです。

じいじのおうちにあそびに行くと、晴れのあつい日には、プールに水をためてくれていて、水がつめたすぎないように、すぐにわたしともうとがあそべるように、やさしい気持ちでよういしてくれています。

夕ごはんの前は、じいじのはたけにしゅうかくに行きます。かごとハサミをもって、なす、きゅうり、トマト、ピーマン、ゴーヤ、しそ、ねぎをとります。

そのやさいをつかって、いっしょにごはんをつくるのが、わたしは大すきです。じいじがつくってくれるごはん、一ばんすきなものは「カツオのたたき」です。

わらであぶって、こおり水でひやしてたっぷりのオニオンスライスにポンズをかけてたべると、とび上がりたくなるくらいとってもおいしいです。

ごはんをたべて、お風呂に入ったあとは、いつもフルーツを出してくれます。わたしともうとがたべていると、

「ええかおしてたべるなあ。かわいいなあ。」

と、にこにこわらしてくれます。うれしそうなじいじのかおが見られて、わたしもうれしい気持ちになります。

さく文を書いていると、おかあさんが、

「じいじがしてくれることは、あたり前じゃないんだよ。かんしゃしなきゃね。」

と、言いました。わたしは、なんだかむねがぎゅうつとなって、なみだが出ました。

この気持ちをわすれずに、じいじのことをもっと大切にしたいと思います。



百合子さん、ありがとう

邑久小学校 3年 森上 直美

「百合子さんから、に物がとどいたよ。」

と、お母さんがわたしに言った。わたしは、

「やったあ。」

と、お母さんの所へ走って行った。

百合子さんとは、わたしのおばあちゃんのこと。どうして「おばあちゃん」ではなく、「百合子さん」とよぶのかというと、百合子さんは昔から、

「自分の名前がに合わないからすきじゃない。」

と、いつも言っていた。だから、お母さんは、どうすれば自分の名前をすきになってくれるのかなと考えて、「お母さん」ではなく、「百合子さん」と名前だよぶことにしたそう。すると、それから百合子さんは自分の名前がきらいだと言わなくなったらしい。わたしもいつの間にか「百合子さん」とよぶようになっていた。

そんな百合子さんが、今年の三月、心臓発作というびょう気で死んでしまった。とつぜんだったので、わたしは、とても悲しかった。朝、起きた時にその知らせを聞いてびっくりした。お母さんがとても悲しんでいたのを、

「お母さんは、一人じゃないよ。ほかにも、お兄ちゃん、お父さん、それにわたし、みんないっしょにいるから、大じょうぶだよ。」

と、わたしは言った。すると、お母さんは

「ありがとう。」

と言ってくれた。

百合子さんが住んでいた所は、おか山県から少しはなれたとく島県。すぐに、したくをして出発した。そのころ、わたしには二つの気持ちがあった。一つは、久しぶりにおじいちゃんやいとこに会えるからうれしい気持ちと、もう一つは百合子さんが死んでしまって悲しい気持ち。車で三時間半くらいかかってやっと、とう着すると、おじいちゃんと、ふとんで横になっている百合子さんのすがたが見えた。

わたしたちが何を話しかけてもへんじはなかった。さい後のおわかれをする時、百合子さんのひつぎに三人で作ったおり紙を入れることにした。お母さんは、ハートのおり紙にメッセージを書いた物を、お兄ちゃんはゆりの花を、わたしは四つ葉のクローバーを、ありがとうの気持ちをこめて作った。

大すきな百合子さんと、とつぜんのおわかれ。新がたコロナ感せんしょうがはやって、とく島県へ帰ることができなくなり、二年くらい会えていなかった。せつかく会えたのに、百合子さんとは、話もできないし、この日がさい後になるなんて。でも、お母さんは、「さい後にみんなで百合子さんを見送ってあげることができて、本当によかった。百合子さんもきつとよるこんでくれているよ。」

と言っていた。いつもプレゼントやおいしい物をたくさん送ってくれていた百合子さん。これからわたしは、べん強やならい事をがんばるから、お空で見まもっていてね。

百合子さん、今まで本当にありがとう。



十才のたん生日

牛窓東小学校 4年 山根 翔智

七月二十六日、ぼくは十才になりました。

ぼくは、十才のたん生日をむかえるのが楽しみでした。理由は、ぼくの中で十才は、今までとちがつてすごく成長したなと思う年だからです。たん生日の日まで、ドキドキワクワクしてすごしました。

たん生日当日、朝起きると、いつもより部屋のかざりつけがすごくこっていて、びっくりしました。お母さんと妹に、

「おたん生日おめでとう！」

と言われてすごくうれしかったです。朝早くから仕事に行っていたお父さんもわざわざ帰ってきてくれて、おめでとうと言ってくれました。

ぼくの家では、家族みんなでたん生日会をします。たん生日会のメニューはぼくが決めて、お母さんがケーキも作ってくれます。今年もとなりのおじいちゃんとおばあちゃん、いとこもおいわいに来てくれました。また、友達もおめでとうを言いに来てくれました。

ぼくは、みんなに大切に思ってもらえているんだなあと、すごくうれしかったです。

もう一つ、ぼくの家では毎年たん生日にやる事があります。それは、出さんビデオを家族みんなで見ることです。ビデオを見ると、家族みんながえ顔になります。お母さんは毎年泣きます。今年十回目のビデオを見て、ぼくは、ぶじに生まれて良かったなと思いました。人間はこのようにして命をつなげていっているんだなと思うと、人間ですごいなと思います。

だからこそ、ぼくはこのたったひとつの命を大切にしていきたいと思っています。お父さんとお母さんからのプレゼントの一つに、手紙がありました。その手紙の中には、ぼくがかけがえのな

い大切なそんざいだと書かれていました。ぼくがお母さんのおなかの中にいた時のうれしい気持ちやふあな気持ちも書かれていました。

また、ずっと知りたかったぼくのランドセルに書かれたメッセージの一部の言葉ものっていました。ぼくはその手紙をもらって、これから先もがんばろうという気持ちになったし、どんな事があっても前向きに進める気がしました。

ぼくは十才になりました。これから先、悲しいことや苦しいこと、つらいことにぶつかることがあると思います。だけどぼくのまわりには、ぼくをささえてくれる家族や友達があります。

こまった時は助けてもらい、また、みんながこまっていたら、ぼくも助けてあげられるやさしい人になりたいです。ぼくがかげがえのないそんざいであるように、みんなもだれかのかけがえのないそんざいです。

たったひとつの命はみんなにあります。そのひとつひとつの命を大切にしたいです。



ハンモック

行幸小学校 5年 野田 篤史

今年の五月にひいじいちゃんが亡くなった時、ぼくはこれまでに経験したことのないくらい悲しみました。いつも下関に帰ると、お庭からひよこつと現れて、「あら、きとつたん。」

と言ってくれたひいじいちゃんもういないと思うと、とてもさびしいです。

ぼくのひいじいちゃんは、とつてもすごくてそんけいできる人です。かっこいいところは三つあります。

一つ目は記おく力がすごいところです。

ひいじいちゃんには孫が十一人、ひ孫が十七人もいます。その二十八人の名前を全員覚えていました。それだけでなく、その結こん相手の名前も覚えていたり、全員のたん生日をカレンダーに書き留めて必ず連絡をくれたりしました。

ぼくだったら、そんなにたくさんのことを覚えている自信はないけど、九十代でできるなんてすごいと思いました。

二つ目はきちょう面なところです。

ぼくとちがって字がとつてもきれいで、送られてくる手紙の字は本のように読みやすかったです。それにぼくが手紙を送ったら、必ずすぐに返事をくれました。

また、戦争の時に軍隊に入っていたからか、自分のことは自分でしていました。つってきた魚をさばいたり、洗たくをしたりしていました。

ぼくはまだ洗たくも料理も手伝うしかできないけど、ひいじいちゃんは自分で生きていけてすごいなあと思いました。

三つ目は手先が器用なところです。

牛乳パックでアイスを作ったり、空きかんで畑の鳥よけを作ったり、大きな物だとカーポートも手作りしてしまいます。

その中で、ひいじいちゃんとの一番大切な思い出があります。それがハンモックです。

ひいじいちゃんは戦争の後、下関にあるあみの会社で働いていました。そのハンモックもひいじいちゃん手作りです。がんじょうで、あみ目がきれいで、遊びに来た友達も愛用する、最高のハンモックです。

天気のいい日はもちろん、弟とけんかした時や学校でいやなことがあった時にのると気持ちがすっきりしてきます。ぼくはおこりっぽいのでハンモックがおさえ役になっています。

こんなひいじいちゃんを、ぼくはほこりに思います。今、天国で見守ってくれていると思うから、ひいじいちゃんと家族のために、笑顔で毎日を過ごしたいです。そしてひいじいちゃんのように、自分のことは自分でできて、家族思いの人になれるよう、いろいろなことを全力で取り組もうと思います。



父の背中

今城小学校 6年 瀬濱 将悟

「チーン」仏壇の前で手を合わせている父の背中を見て思いだした。

祖父がなくなって二年になる。その日は、父と母の結婚記念日で、家族でお祝いをしていた。ケーキを食べて、後片付けをしている時、母のけい帯がなった。それは、祖父の入所している施設からだった。施設の人と話をしている母の顔があせった様子だった。

「おじいちゃんが危険な状態って。」

と今にも泣きそうな顔で母は言った。父と兄と妹とぼくは、すぐに祖父が運ばれた病院に向った。心臓マッサージをしてくれていたが、すでに呼吸はしていない状態だった。

「もういいです。ありがとうございました。」

と父が言った。ぼくは、信じられなかった。数日前に会った祖父は、元気だったのに…。ぼくは、声を出して泣いた。そんなぼくを父は、優しく背中をさすってくれ、そばにいてくれた。だれよりもつらいはずの父は、泣くこともなく、色々と話を進めていった。

おそう式では、親族の前で、みんなに感謝をいっていた。父は母のおかげだと感謝を伝えていたのが日頃にはない姿だったので、印象的だった。そして、ぼくたちのことも言っていた。孫ができ、近くで成長を見れていたことを喜んでいと話しながら父は声をつまらせた。その背中

は、グッとふんばっている男の背中だった。人が人を思っている言葉には本当に心がこもっていて、ひびくものがあると感じた。ぼくは父のことをかっこいいと思った。父は、あの時どんな思いをしていたのか。ぼくにできるのか。父の背中に向かって聞いた。

「お父さんは、おじいちゃんが亡くなった時どうして泣かなかったの。」

と言ったら、父はふり返り、

「おじさんが泣いていたらおかしいだろう。それに男はかんたんに泣かないんだ。だからお父さんが死んでも泣くなよ。」

と、じょう談をいうように言った。ぼくは、

「おれは、そんなことでせん。」

といつたら、

「将悟は、お父さんが好きだからなあ。」

といて背をむけた。その背中

は少し照れているように思えた。そして、大きく感じた。最近になって、父とはあまり話がもり上がらずどうしても自分の部屋にすることが増えてきた。父の話もまともに聞けず、反応が悪くなって、よく叱られてしまう。なぜか、父の言い方にイライラして、そんな態度をとってしまう。

だけど、あの時、父がさすってくれた背中の温かさは覚えている。なかなか声に出して言えな

いけど、お父さんのような家族を守れるような男になりたいと思った。これからも父の物事に取り組む姿勢を見て、成長していこうと思う。

いつもありがとう。お父さん。

## 中学生の部



妹が生まれてから

長船中学校 1年 酒井 佑月

「赤ちゃんってこんなに小さいんだ。」

私が初めて妹を見た時、そう思いました。妹が生まれた時、私は小学2年生で弟は保育園の年長さんでした。生まれたばかりの妹をだっこしたくて、いつも二人でとり合いをしていました。

8才年が離れている妹は、どの赤ちゃんよりもかわいく見えました。ベットにいる妹が泣きだしたら、私と弟で

「すずちゃん、泣いてるよー。」

と、母に向かって大声でさげびます。

「ちょっとまってー。」

母が手をはなせない時は私たちの出番です。私と弟で、妹をテーマにした自分たち作詞作曲の歌をうたっています。歌をきいた妹がびたりと泣きやんで、くりくりの目で、なんだか不思議そうに私を見つめてきたのを、よく覚えています。

妹が歩き始めてからは、たまにお風呂に入れてあげていました。お母さんが、

「小さい子は、少しの水だけでも溺れちゃうことがあるんだよ。」

と教えてくれたので、妹と二人で湯舟に入る時には足をすべらせて溺れないように、目を離さないようにしました。

また、私が髪を洗うときは、妹を湯舟から出して私の近くにおいて、洗面器におもちやを入れて遊ばせて、安全に過ごせるように気を付けました。湯舟をのぞき込んで頭から落ちないように、ふたを閉めるようにもしました。

妹が2才を過ぎた頃からは、私と同じ物を食べることができるようになりましたが、何度か食べ物をのどにつまらせて、その度にヒヤッとさせられました。たまにニュースで小さい子がのどに食べ物をつまらせて亡くなっているの、りんごやおもちやこんにやくゼリーなどのつまりやすい物を食べている時は、しっかり近くで見とおこうと、思うようになりました。

最近では4才になった妹と散歩に出かけます。妹と母、弟、私で夕方、散歩をしていたら、妹がねこじゃらしみたいな形をしているエノコログサを見つけて、手で振り回して遊びながら歩いていました。

ほんの一瞬の出来事です。エノコログサが妹の手からずっと道路に飛んでいってしまいました。夕方だったので車がたくさん通っていたのに、妹はそれを取りに行こうとしていました。私はあわてて

「すずちゃん、ダメ！」

と言って手を引っ張って引き止めました。母は妹に、

「道路には出ません。」



と、怒っていました。まだまだ妹から目が離せないなと思いました。

私は、妹を通じて、幼い子たちにはたくさん、気を付けなければいけないことがあることを知りました。私よりも父や母の方が日頃から気を配っている所が多くあると思います。私はすずちゃんが泣き続けている時、母に

「大変やなあ。」

と言ったら

「すずちゃんより、ゆづちゃんの方が、たくさんの事に手間をかけて、育てているんだよー。」

と言われました。すずちゃんもたくさん世話してもらっているけど自分はそれ以上に、多くのことを気づかって、大切にしてもらっていたのだと思うと、嬉しさと両親への感謝の気持ちがこみ上げてきました。

この夏で5才になる妹。今でも、チョコパンを食べたら口の周りがチョコまみれになって弟に「なんでパン食べただけで、そんな口になるん。」

と、突っこまれている様子を見ていて、とても微笑ましいです。

ポップコーンをポックコーンと言い、とうもろこしをとうろもこしと言っている妹が、成長してポップコーン、とうもろこしと、しゃべる時が来るのが楽しみなような、寂しいようなと感じています。

まだまだ、世話がやけるすずちゃん。これからもお姉ちゃんとして支えるから、お得意の笑顔で過ごしてくれたらうれしいな。



家族と過ごすお盆

邑久中学校 2年 神谷 凧穂

私の家は両親が共働きのため、幼い頃から近所に住んでいる母の実家、祖父母の家で放課後を過ごすことがお決まりのパターンでした。

当時、小さかった私は、祖父母の家にある自分の家で見ることのないものに興味津々でした。例えば、祖父が農作業で使用している農機具や道具、家は私の家より古いけれど大きく、神棚がいくつもあったり、部屋は畳が敷かれており、子どもが遊ぶには十分の広さがありました。

その空間にある、ある物がとても気に入りしました。

それは、仏壇です。

私が小学校一年生までは、曾祖父が健在でした。その曾祖父が夕方頃になると、仏壇の前で手を合わせてお経を読んでいる姿がとても印象に残っています。その頃の私には、何をしているのか理解することが出来ませんでした。

ただ、八月のお盆の時期になると分かることがありました。仏壇の周りにたくさんのお花や果物やお菓子といったものがお供えされ、家紋の入った提灯、出入りに灯ろうが飾られて、どこか賑やかになることでした。

ある時、不思議に思っただけで祖父母に尋ねたことがあります。

「なんで、こんなことするん。」

「お盆はな、昔から亡くなった家族が家に帰ってくると言われとって、自分の家が分かるように目印として灯ろうを飾るとんじゃ。今の時代は、色んな環境問題があるから川に流すことが出来んようになったけど、昔はお盆の三日間のお供えした食事を精霊船に乗せて家族みんなで川まで流しに行きよったんじゃ。」

聞いてはみたものの、亡くなった人が帰ってくるという考え方が難しく、何を言っているんだろ

うと感じたことを今でも覚えています。

でも、一つだけ確信したことは、祖父母がお盆を大切にしているということです。祖父母の小さかった頃は、最初は私と同じように理解できなかったはずですが。

大人になっても、毎年同じように過ごしているということは、この行事が家族の中で大切に引き継がれてきたということです。

私も大きくなり、お盆を大切に思えるようになりました。それは、亡くなった曾祖父のことがあるからだと思います。

お盆の三日間の夜は、必ず家族みんなで行うことがあります。日頃は、祖父母の家には祖父母ふたりしか住んでいませんが、お盆の日は私の家族、いとこ家族が集まります。みんな揃ってお経を読みます。

お経の本は難しい漢字や読み方ばかりで、言葉の意味なんてもちろん分からないから、なぜ読まないといけないのかと疑問に思っていました。

それでも、家族の読む真似をして読んでいましたが、「お経」とは一体何なのか、まずお経の内容ではなく、お経という言葉の意味を調べてみることにしました。

そして、世の中の真理や心安らかに生きていく考え方、様々な仏様の恵みやご利益の素晴らしさが書かれていて、みんなを幸福にする効果があるのだ、ということを知りました。

もしも、曾祖父がこの意味を知っていてお経を読んでいたら、感謝の言葉しかありません。

また、もっと意味を調べると故人を含めたその場にいる全員のために読むものだと分かったので、私も一生懸命、心を込めて読もうと思いました。

曾祖父ら先祖のため、祖父母のため、家族のために、読みたいと思いました。

そして、これから私も成人し、大人になり、将来自分の家族を持つことになる時が来ると思います。その時に、新しい家族に私が小さい頃からしてきたこの行事を話して伝えていきたいと思いました。

そうやって色んなことを感じさせて、考えさせてくれた曾祖父に感謝しています。また、祖父母にも。

だから、お盆は曾祖父のことを思い出します。きっと、毎年お盆に私がお経を読む姿をどこかで見てくれているのだと信じています。

家族の一番後ろでお経を読んでいた曾祖父の姿を忘れることが出来ません。

これからも、私たち家族はお盆の行事を大切にしていきます。

いつまでも元気で、仲良くみんなが過ごせるようにと祈りながら。



僕のおばあちゃん

長船中学校 3年 安達 光希

僕のおばあちゃんは、現在八十四歳だが未だに恐ろしいほど健康で、現在十四歳の僕でも外出をためらうほどの猛暑日でも平気で畑仕事に出かけ、僕の記憶の中で目立った病気になったこともなければ風邪をひいたこともない。さらに、よく僕と口げんかもする。それほど元気なおばあちゃんなのだ。

しかし、そんなおばあちゃんに対して心配していることがある。それは、耳が遠いことだ。

例えば、僕がのどがかわいている時、リビングから台所にいるおばあちゃんに向かって

「お茶を持ってきて。」

と普通の声量で言っても、ほとんどの場合聞こえておらず、そういう時僕は、イライラしてさらに大きな声を出したり、仕方なく自分で取りに行ったりする。しかし、今までに何回か、無視し続けられたことで本当に頭にきて、つい感情的になってしまい、

「どうして聞こえないの！」

と、おばあちゃんを怒鳴りつけてしまうことがあった。そして、怒鳴った瞬間我に返り、おばあちゃんの悲しそうな顔を見て、「どうして怒鳴ってしまったんだ」と、自分自身に対してやり場のない怒りを感じてしまうこともあった。

そんな時、「あることができる人は、それができない人の気持ちが分からない」という、たまたま読んでいた本の一節を見て、ハッとした。

確かに、僕はおばあちゃんのように耳が遠くないが、耳が遠いおばあちゃんの気持ちなんて考えたことがなかった。

試しに自分の両耳を指で塞いで、しばらく過ごしてみた。すると、普段は鮮明に聞こえるはずの母の声や、テレビの音がほとんど聞こえなくなり、世界が大きく変わったような気がした。

その内、おばあちゃんはこんなにつらい世界を生きていたんだと気が付き、涙が出てきた。

思い返せば、僕がおばあちゃんの耳が遠いことがきっかけで怒鳴ったりしてしまった時、おばあちゃんは言い返したり、不機嫌になったりせず、ただ悲しそうな顔をして、ずっと黙っていた。

僕なら、間違いなく逆ギレしていたであろう所を、おばあちゃんはずっと耐えていたんだ。結局、僕はおばあちゃんに「今までごめん」と言うことはできなかった。でもそのかわりに僕は、おばあちゃんが何かをしてくれた時、大きな声で

「ありがとう。」

と言ったり、何か言っておばあちゃんがうまく聞き取れなかった時は、怒鳴ったりせず

「いいんだよ。」

と声を掛けたりして、ありのままのおばあちゃんを受け入れるようにした。その結果、今までのような悲しい顔を見ることはなくなり、代わりに明るい笑顔を見ることが増えたような気がして、嬉しくなった。

そんな中、事件が起こった。なんと、おばあちゃんが補聴器を買ったのだ。それを聞いて、僕はとても驚いた。そして、おばあちゃんの耳が良くなることを嬉しく思う反面、耳の遠いおばあちゃんと過ごした日々慣れていた僕は、今までの日常が、がらりと変わってしまうことが少し寂しく思えた。

ところが、おばあちゃんが家で補聴器をつけることはなかった。あまりに周囲の音が聞こえずぎてしまうことに違和感を覚え、自分で外したのだ。

これには他の家族は少々不服そうだったが、僕はいつも通りのおばあちゃんがもどってきてくれたことに、不思議と安心して嬉しくなった。

結局、おばあちゃんは今も耳が遠いまだが、僕はそのままでいいと思っている。なぜなら、それが僕のおばあちゃんなのだからだ。

今までも。

そして、これから先もずっと。

## 保護者の部



長女の成長

国府小学校 赤木 貴博

「私がするから、トトは蘭を見てて。」

娘に指示されて次女の世話をする私。私は八歳になる長女と六歳になる長男、そして、三歳になる次女の子どもをもつ父親です。

仕事の都合で平日休みの多い私は、長女の夏休み期間を長女と共に過ごすことが多いです。普段は夏休みの宿題を見たり、アニメや映画を一緒に見たりして、こども園に通う長男や次女、妻の帰りを待つ夏休みを過ごしていました。

「今日は蘭、少し熱があるみたいだからこども園休ませようと思う。」

ある朝、妻から次女の体調が良くないためにこども園を休み、長女と共に次女の面倒を見てほしいと言われました。もちろん私は、

「いいよ。僕が二人の面倒を見るから、仕事頑張ってきて。」

そう言って共働きをしている妻を送り出し、私の一日が始まりました。口では強気に、「僕に任せとおけ」と、言わんばかりの私でしたが、心の内では

「どうしよう。三年生の娘一人なら大丈夫だが、三歳の娘も一緒に一日過ごすなんて出来るだろうか。」

そう思ってしまったのが正直な私の気持ちでした。果たして、どのような一日になるのでしょうか。

妻を仕事に送り出してから、子どもたち三人に朝食を作り、長男をこども園に送って行きます。しかし、長女と次女二人を家に残して行くわけにはいかないので、体調の悪い次女を含めて子どもたち三人を連れて、こども園に出発しようとした時、長女が私に

「トト、私が蘭を見ているから、こども園に行つて来て。私たちは大丈夫だから。」

自ら妹の面倒を見ると言ってきた長女。私は一度は断つたものの、長女は繰り返して

「大丈夫だから。」

と言ってきてくれます。私は、

「じゃあ、よろしく頼むよ。すぐに帰つて来るから。」

そう言い残して、長男を近くのこども園に送りに出かけました。「本当に大丈夫だろうか。何もありませんように。」と心で願いながら家をあとにしました。

約十五分後、長女と次女が待つ家へ帰つて来ると、そこには、私が想像していた以上の姿がありました。それは、次女と楽しく話をしながら、朝食後の食器の洗い物をしている長女の姿です。

次女はとても楽しそうに長女と話をしている傍ら、長女は皿やコップ、フライパン等を流し台で手際よく洗っているのです。呆気にとられた私は、自分がどれだけ長女の成長に気付いていなかったのか恥じてしまいました。

そんな私を横目に長女は、

「おかえり、早かったね。洗い物はもう少しで終わるから。あ、洗濯が終わっているみたいだから、それだけはよろしくね。」

私は思わず、

「う、うん。わかった。ありがとう。」

そう一言口に出す事しか出来ませんでした。洗濯した衣類を全て干し終わる頃にはとっくに洗  
物を終わらせていた長女は、

「私が蘭を見ておくから、トトは掃除機をかけてきて。」

小学三年生に指示される私。素直に言われるがまま、掃除機をかけ始めました。

長女のおかげで、短時間で全ての部屋の掃除を終えることが出来ました。昼食を終え、次女  
が眠たくなり大声で泣き始めました。

私は、突然のにわか雨のため、今朝干した衣類を取り込んでいる最中でした。「どうしよう、困っ  
たな。」口には出しませんでしたが、きっと表情には表れていたんだと思います。すかさず長女が、  
「私が洗濯物を取り込むから、トトは蘭ちゃんを見てて。」

そう力強く言ってくれました。娘の成長を知らなかった昨日までなら、私は任せることが出来ま  
せんでしたが、今朝から見せる、たくましい長女の姿を知っている今なら、

「わかった。あとは任せたよ。」

そう迷うことなく言うことが出来ました。もちろん、手際良く洗濯物を取り込んでくれたのは言う  
までもありません。

夜、妻が帰宅して、今日の長女の行動を全て話しました。妻は、

「すごいね。かっこいいお姉ちゃんだね。」

そう長女のことをたくさん褒めました。子どもたちが寝て、静まり返ったリビングで、妻は私にこ  
う言いました。

「私たちが知らないだけで、子どもは毎日成長しているね。ただ体が大きくなったとかだけではな  
く、一人の人間として立派に成長している。親は気付かないもんだね。」

十一月は、そんな弟妹のために頑張っている長女の九回目の誕生日が待っています。弟や妹  
の誕生日ケーキよりも大きなケーキを用意してお祝いをしてあげようと妻と計画していることは、  
長女には秘密にしています。



お仕事体験

行幸小学校 後藤 佐由里

我が家は、小学6年生と小学2年生の娘と車屋を経営している主人と私の4人家族です。

今年の夏休みもコロナの大流行でなかなか友達の家にも行けず、娘たちはダラダラ過ごして  
いました。家と工場が同じ敷地内にあるため、仕事もお構いなしに仕事場にやってきました。

ある日、私が車の洗車をしていると、次女が私の仕事着を着て家から出てきました。

「えっ？ その格好どうしたん。」

って聞くと、目を輝かせて

「私も働きたい。」

とやってきたので、私は驚きました。

「じゃあ、1日仕事体験してみる？」

と聞くと、

「うん。」

と言うので、車の中の掃除を一緒にしました。私が掃除の仕方を教えると、素直に

「わかった。」

と言って一生懸命手伝ってくれました。

「ママ、暑いのにいつも頑張っているんだね。すごいね。」

と次女に言われて嬉しく思いました。

手際も良く、お客さんが来たら、挨拶も出来ていて、私もお客さんも驚かされましたし日頃、私や主人の働いている姿を良く見ているんだなあと感じました。

1日仕事体験が終わり、どうだったかと聞いたら娘は、

「洗車した車を拭くのが大変だったし、疲れた。毎日、仕事終わったら疲れたと何度も言ってるママとパパの気持ちがすごくわかった。それと、楽しかったし、また働きたい。」

と話してくれました。私も、

「1日一緒に働いてくれてありがとう。自分で汚れている所を見つけて綺麗にしてくれたり、挨拶もきちんと出来たりして感心したよ。私も、楽しく仕事できたよ。」

と伝えました。そして、働いた分の給料も少しだけですが出しました。娘はすごく喜んでいました。

このお仕事体験で、仕事の大変さや楽しさ、お金のありがたみ、感謝の気持ちを理解する事ができたので、やらして良かったと思いました。

「またいつでも、働きたかったら言ってね。」

と言うと、満面の笑みで

「明日も、働く〜。」

と言ってくれました。



自然と触れ合える暮らし

## 行幸小学校 池田 吉子

長船へ引っ越しして来て、五年半程になります。我家には、小学一年生の長男、年中の長女、二歳児の次男、三人のにぎやかなこどもたちがいます。

家の周りには自然がたくさんあります。田んぼや畑もたくさんあり、虫も捕り放題です。カエルやバッタはそこら中において、この夏は羽化する前のセミを見つけました。

「どうやってセミになる？」

と興味津々の長男と長女と一緒に、少し夜ふかしをして、羽化する様子を観察しました。あんなに真っ白なセミは初めて見ました。自然が身近にあることを改めて感じました。

家の裏に畑があり、野菜も育てています。こどもたちにも手伝ってもらって肥料を混ぜたり、畝を作ったりしています。

近所の方から頂いた苗で、今年はピーマン、パプリカ、オクラ、スイカ、トマト、キュウリ等を育てました。畝に穴を開け、苗を植えるのもこどもたちと一緒にしました。なかなかお世話がマメにできませんが、夏野菜は毎年豊作です。

こどもたちは、サラダにするキュウリやトマトを穫ってきてくれたり、夕方の水やりのついでにミニトマトを穫って食べたりしています。それでもおいしい食べ頃を逃してしまうこともよくあります。そうすると、トマトにはカナブンが集まりおいしそうに食べています。トウモロコシにも虫が来てしまいました。スイカも大きくなりましたが、

「明日収穫しよう。」

と話をしていた翌日、畑に2羽の黒い影が・・・。

カラスでした。

「あ〜！」

と声をあげましたが、時すでに遅し。スイカには大きな穴があいてしまいました。中身は真赤に熟れておいしそうでしたが残念でした。こどもたちは、

「もう!! カラス!!」

と空に向かって大声で叫んでいました。自然の中で、動物たちと共存していくには、これも仕方ありません。

もう一つ大きくなっているスイカは、今度こそカラスに食べられないようにと、こどもたちが大きめのプランターをかぶせました。そのおかげで無事無傷で収穫できました。甘くてとてもおいしいスイカでした。

近所の方はみなさん野菜作りの大先輩です。苗を頂いたり、世話の仕方を教えて頂いたり、収穫の頃あいをお聞きしたり、いろいろな事を教えて頂きます。こどもたちも自然と

「おはようございます。」

と声をかけたり、畑仕事をされている側へ行き、いろいろ話をしたりしています。邪魔してないか気になって声をかけに行く

「いいんよ。おしゃべりが上手になったね。宿題がたくさんあるって教えてくれたんよ。」

と云ってくださり、こどもの話を聞いてもらえる事、気にかけてくださる事をとってもありがたいな、と思っています。

自然と触れ合って遊ぶことが大好きなこどもたち。しっかり自分の手で触れて、自分で考え試してみる中で、自分が感じたことを大事にして大きくなってほしいと思っています。

時々、びっくりするような事も起こります。野菜が切り刻まれて料理になっていたり、庭の一角にもものすごく深いドロの落とし穴ができていたり、花壇のマリーゴールドがちぎられてサラダになっていたり、大量のセミの抜け殻が虫かごに集められていたり。書いていたらきりがありません。

大人が考えつかない様な事、片付けの事を考えてしまうとやりたくない様な事も、三人それぞれがおもしろそうにしています。誰かがおもしろそうな事をしていて、自然とそこに集まって、遊びが広がります。なるべく口をはさまず“おもしろくなりそうだな”と様子を見ています。ケンカになる事も多いですが、それも含めて、おもしろいと感じる瞬間です。

何かと忙しさに追われて、  
「もう。」と怒ってしまったり、

「早くして。」とせかしてしまったりして、後で反省する日々ですが、なるべく三人それぞれのペースを尊重しながら、一人ひとりが“やりたい”ことをじっくり楽しめるように、こどもたちとの時間を大切にしたいです。

自然との関わり、地域の方との触れ合い、野菜を育てそれを味わう喜びなど、経験して感じた事がこどもたちの力に変わっているといいな、と思います。

三人が成長する中で、感じている思いに気付いて、受け止めてあげられるように、日々笑顔で何事も一緒に楽しめるよう、私たちも気持ちにゆとりを持ちたいと思います。

これからもたくさん楽しい事、おもしろい事、困った事が起こると思います。経験を通して、自分で考えた事、感じた事を大切にしながら、周りの人や物に目を向け、想像し、試して、ゆっくり成長してほしいと思います。共有できる日が楽しみです。



## 我が家のお味噌汁

行幸小学校 山下 梨奈

私には三人の娘がいます。去年から子供達のお家時間が増え、私が仕事に行っている間宿題以外の時は主に、ゲームやテレビを見て過ごしています。

こんな生活に終わりが今見えない事から、我が家はお手伝いの項目を増やしました。

それが、晩御飯のお味噌汁です。基本毎日お味噌汁を飲むので、お味噌汁は子供達を作るというルーティンにいつしかなっています。

長女の作るお味噌汁は、自分の好きな具材で作ることが多いため、じゃがいもやさつまいもが入っている確率が高いです。

二女の作るお味噌汁は、具たくさんで鍋いっぱいのお味噌汁を作ってくれるので、次の日の朝食の分まであります。

三女の作るお味噌汁は、玉ねぎ、油あげ、ワカメ、豆腐が入った我が家定番のお味噌汁を作ってくれます。

そして、毎日違う見た目と内容なので、誰が作ったのか当てるといふ楽しみもあります。

今では慣れた手つきでお味噌汁を作ってくれているけれど、最初は具の切り方からのスタートでした。包丁の使い方も危なっかしくて、ヒヤヒヤする思いでした。

そんなルーティンがもう一年以上経った今、面倒くさい日のお味噌汁は具が少なめという日も多々あります。それでも、子供達を作ってくれたという嬉しさとありがたさを毎日感じています。

仕事から帰って、晩御飯のメニューの一品が子供達の作ったお味噌汁。

私にとって、一番美味しい晩御飯のメニューです。



## コロナ差別を学んで

行幸小学校 中川 愛

この春、私は初めて小学校のPTA役員になった。6月に県の研修会にリモートで参加し、コロナ禍で起こる差別について教わる事となった。

今、コロナによって差別を受け、傷ついている人がたくさんいる。感染してしまった人を責めず、誰でも感染する可能性がある事を忘れてはいけない。感染を広げない為にも、感染した事を隠さなくても良い社会作りが何より大切なのだそう。

私はドキッとした。コロナに怯えるあまり、当事者の気持ちを考えていなかった事。そればかりか、感染者に対して不満をもっていたからだ。

私のような考えの人が多くいると、どうなるのか。感染者は、攻撃されないように感染した事を隠したいという心理が働く。そして、情報は遅れる。そのまま人は動き、感染は広がっていくそう。私は、自分の考えが間違っていたと反省した。

また、こんな事も学んだ。自分や家族など身近な人が感染してしまった時にパニックにならないよう、前もって家庭で考えておく事も重要だそう。

私は、子供達と一緒にシミュレーションをしてみた。内容はこうだ。

私が感染し、自宅療養する。主人も子供達も濃厚接触者となり、外出はできない。長期の治療



も考えられる。

「外出できないんだったら、買い物いけないね。食べ物はどうするん？」

「ネットで注文できるかも。」

「でも、すぐには届かんよ。」

私と子供達は、家中の食料品を確認してみた。今ある食料品で家族5人の食事が、3日分作れたら良い方だろう。調理が簡単で保存のきく食料品がもっと必要だと気が付く。更に、

「日用品も足り無いのでは。」

という話になり、マスクやゴム手袋、消毒液なども確認してみた。除菌ジェルや消毒液のストックがあまり無い事に気付く。実際に動いてみなくては分からない事もあると思った。

続けて、子供達とはこんな話もした。

「友達が感染したら、どうしてあげたらいいのかな？」

私は、研修で教わった事を思い出した。差別を無くすには、思いやりをもつ事が大切なのだそう。他人事とは思わず、当事者の気持ちを考える。そうする事で、攻撃的な発言や行動は少なくなる。

私は、想像し考えた。

もし、自分がコロナに感染してしまったら。不安で一杯の中、一人でコロナと闘わなくてはいけなかもしれない。肉体的にも精神的にも、辛い思いをしなくてはいけなかもしれない。子供達に、

「直接は会えないけど、電話やLINEを使って話だけでも聞いてあげたらどうじゃろ。」

と、自分なりの考えを伝えた。これが正解なのかは分からなかったが、子供達の表情は和らいだ。私は、子供達に何かできる事があるはずという事を伝えたかった。

それから何日か経って、私も自分にできる事を探してみようと思った。この研修を受けさせてもらったのは、PTA役員をさせてもらっているからこそ。我が家だけではなく、小学校にも研修の内容を伝えたいと思った。

私はパソコンに向かった。児童の皆さんに資料を作る事にしたのだ。コロナという言葉を知り、怖いと思う子もいるかもしれないから柔らかい感じにしたい。一年生の子が読み切れる量にしたい。いろいろな思いが出てくる。

そして、何とかA4用紙にまとめることができた。私は役員会で先生方と役員の皆さんにこの資料を見てもらい、校内に掲示してもらえ事となった。

児童の皆さんが、ちょっと足を止めて読んでみようかなと思ってくれたら本望だ。コロナ差別について、考えるきっかけになってくれたら尚更ありがたいと思っていた。

7月に入り、いつも通り子供達から学校通信を受け取った。そこに、人権週間に合わせクラスで大切にしたい事をまとめ、児童玄関に掲示しましたと写真付きで書かれていた。それから、私の作った資料も一緒に掲示しているといった内容も書かれており、先生方のご配慮に深く感謝した。

私達は、ある日突然コロナ禍の中を生きなくてはいけなくなりました。これまで以上に、差別はいけなという認識をもとうと強く思った。

## 瀬戸内市優良賞一覧

### 〔小学生の部〕

題名	所属	氏名
わたしのなつやすみのおしごと	行幸小学校 1年	林 美 織 菜
パパとわたしのじかん	国府小学校 1年	万代帆乃果
わたしのおとうさん	国府小学校 2年	幡上心結
ぼくの弟と妹	邑久小学校 2年	那須健人
「わたしの妹」	裳掛小学校 3年	長嶋留梨
百才すごいね ひいじいちゃん	牛窓東小学校 3年	岡崎咲和
心と心のつながり	行幸小学校 4年	柴田羽捺
私はお姉ちゃん	今城小学校 4年	瀬濱映美
わが家のお父さん	邑久小学校 5年	矢田美空
あこがれの人	今城小学校 5年	橋本佳歩
励ましてくれる父と母	邑久小学校 6年	則枝宏亮
家族大集合	行幸小学校 6年	森千咲子

### 〔中学生の部〕

コロナ禍での家族との過ごし方	長船中学校 1年	檜山空来
「やさしさ」イコール「心の強さ」	牛窓中学校 1年	木山 滉
「働く父と母を見て」	牛窓中学校 2年	内田勇斗
お母さんと私	長船中学校 2年	山本咲希
チョコに隠れた姉への気持ち	長船中学校 3年	大倉由姫乃
「言葉にしなきゃ、この気持ち！」	長船中学校 3年	吉田遥華

### 〔保護者の部〕

親子読書	国府小学校	宮本和子
上靴洗いません宣言	行幸小学校	野田真美
姉妹ゲンカ	行幸小学校	小野田夕子
家族で共通して	行幸小学校	杉本美香
初めての夏休み	行幸小学校	厚木裕子
私の子供達	行幸小学校	塩尻莉那

## 瀬戸内市佳作賞一覧

### 〔小学生の部〕

題名	所属	氏名
おだんごつくるのたのしいな	牛窓東小学校 1年	高田浩志
ぼくのおとうさん	牛窓西小学校 1年	植木将太
おかあさんおたすけだいきせん	牛窓北小学校 1年	松本稜央
おにいちゃんになるぼく	邑久小学校 1年	大森瑛介
わたしのおじいさんおばあさん	邑久小学校 1年	倉地一花
わたしのかぞく	邑久小学校 1年	濱子愛茉音
がっくんにゆういんできづいたこと	今城小学校 1年	大島 空
だいかぞくになりたいな	今城小学校 1年	佐藤綾乃
「大せつなやくそく」	裳掛小学校 1年	井上四葉
ぼくのかぞく	美和小学校 1年	野崎陸人
わたしは ちいさなおかあさん	行幸小学校 1年	三木いのり
わたしのかぞくのじかん	牛窓東小学校 2年	藤井咲帆
ママとプールに行ったこと	牛窓西小学校 2年	柴田花奈
わたしにできること	牛窓北小学校 2年	柏原希星
はたらくおとうさんとおかあさんを見て	邑久小学校 2年	角田結咲
フルーツポンチをつくった	邑久小学校 2年	内田壺将
いつまでも元気でいてね	美和小学校 2年	近藤結衣
やさいづくりの名人	国府小学校 2年	水田賢冨
ぼくのかぞく	行幸小学校 2年	入江桜真
がんばった さかだち	行幸小学校 2年	山口太郎

題名	所属	氏名
楽しかったよ夏休み	牛窓西小学校 3年	山本直輝
夏のさんぽ	牛窓北小学校 3年	井上夢萌
三兄弟	邑久小学校 3年	花岡良祐
魚つり	邑久小学校 3年	西村葉月
七夕会で思ったこと	邑久小学校 3年	松島蒼也
さい高のトマトジュース	今城小学校 3年	的場美弥
おに教かん	美和小学校 3年	西山翔太
ぼくの弟	国府小学校 3年	内海橙太
ぼくとパパの夏休み	行幸小学校 3年	太田和孝
新しい家族	行幸小学校 3年	太立愛望
ぼくのお父さん	牛窓西小学校 4年	爲房波琉
ぼくができること	牛窓北小学校 4年	井上蒼士
わたしの妹	邑久小学校 4年	安原颯来
ぼくの弟「さっくん」	邑久小学校 4年	石崎善善
思い出のつまった車	邑久小学校 4年	小林未來
家族はやきゅうに夢中	邑久小学校 4年	田村千糸
ぼくの家族	今城小学校 4年	坂本遥都
「たのしい川遊び」	裳掛小学校 4年	坂本翔真
わたしの家族とバレーボール	美和小学校 4年	佐藤由麻
お母さんとカレー作り	国府小学校 4年	目賀稀乃華
おまもりをポケットにつめて	国府小学校 4年	新井栞奈
私のお母さん	行幸小学校 4年	甲矢冬佳
ぼくの仕事	牛窓西小学校 5年	山本裕惺
お仕事をがんばるお父さん	牛窓北小学校 5年	岡己珠
真夜中のクワガタ採集	邑久小学校 5年	大谷里奈
いのちの大切さ	邑久小学校 5年	岡部壮真
ぼくたちの夏休み	邑久小学校 5年	山本圭将
家族で協力	美和小学校 5年	野崎凜音
お天気お兄ちゃん	国府小学校 5年	竹内蓮
おまつり	国府小学校 5年	渡邊紗羽
おじいちゃんの畑	行幸小学校 5年	益田愛理
スマイル キャッチボール	牛窓東小学校 6年	武内ひまり
お兄ちゃん	牛窓西小学校 6年	出射希乃
私のアルバイト	牛窓北小学校 6年	真木心暖
会いたいね、むさばあちゃん	邑久小学校 6年	飛田秋空
やっと気付けた我が家の魅力	邑久小学校 6年	柴田重由果
働く母を見て	今城小学校 6年	岡田穂香
「がんばった お手伝い」	裳掛小学校 6年	河崎紗良
ぼくにできること	美和小学校 6年	河合陽太
家族のために私ができること	国府小学校 6年	横山文乃
第二回新田家夏祭り	国府小学校 6年	新田朔久
お母さんの自まん	行幸小学校 6年	出原結彩

〔中学生の部〕

私の大好きな父	邑久中学校 1年	上村彩寧
家族と過ごす楽しい時間	邑久中学校 1年	荒木実希
私の祖父	邑久中学校 1年	佐藤芙季
私のお父さん	長船中学校 1年	井上菜花
「大切な一日」	邑久中学校 2年	杉田優希
私の祖父と祖母	長船中学校 2年	水田有美
「大切な家族」	長船中学校 2年	川上竜惺
「最期まで変わらなかったおばあちゃん」	牛窓中学校 3年	鳴坂美沙
働く両親から感じたこと	邑久中学校 3年	大倉愛苗



## ほがらか家族

明るい家庭づくり作文集  
(瀬戸内市優秀賞受賞作品)

令和4年2月発行

編集発行

瀬戸内市教育委員会

岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会

〒701-4392 瀬戸内市牛窓町牛窓4911

瀬戸内市教育委員会社会教育課内